

深日地区福祉委員会通信

= 第 9 号 = 2023(令和 5)年 11 月 1 日(水) 深日地区福祉委員会(連絡先:加門憲文 479-8464)

深日小学校創立150周年記念式典を開催

7684名の卒業生を輩出、いっそうの発展を



9月9日、深日小学校にて、創立150周年記念式典がおこなわれました。式典には卒業生や地域の方々が会場に入りきれないほど駆けつけられ、会場は熱気であふれかえっていました。

明治6年9月8日、宝樹寺を仮校舎に、当時の堺県第四十七番小学校として深日小学校が誕生いたしました。60人あまりの子供たちがろうそくやあんどんの下で、

読み書き、そろばんに熱中したことでしょう。その後、明治44年に現在地に移転し、なつかしい木造校舎が出来たのですが、年とともに老朽化が進み、体育館を昭和42年に、校舎は昭和44年から47年にかけて3期に分け建築工事に着手し、昭和48年8月に完成し、本日に至っております。この150年の間、7684名もの卒業生が、岬町のみならず、各地、各方面でご活躍されております。参加者全員が、深日小学校のいっそうの発展を誓い合いました。



本式典開催にあたり、在校生の皆さん、校長先生を始め各先生方、PTA及びPTA OB、OGの方々、深日小学校校友会の皆さん、深日自治区長会、民生委員児童委員協議会、及び深日地区福祉委員会の方々並びに、地域の住民の方々のご理解とご協力を賜り、改めて御礼申し上げます。

(実行委員長・川端修)

ふれあい喫茶でバザー

6月21日(水)・7月19日(水)



深日小学校150周年記念式典運営資金への協力として、「ふれあい喫茶」で2回のバザーを実施。地域の方の協力で集められた季節の野菜や日用品・手芸品・また、子ども達の作った小物等が机一杯に並べられた。一角ではオリジナル記念タオルの販売。子ども達の参加もあり、深日会館の中は熱気であふれていた。協力して下さった地域の方々に感謝!(高倉 雅代)



子ども達の参加もあり、深日会館の中は熱気であふれていた。協力して下さった地域の方々に感謝!(高倉 雅代)

「生きておれば 何とかなる」

深日小・平和教育体験学習(8月9日)

8月9日、深日在住の松尾光造さん(94歳)を講師にお迎えし、5年生を対象に、平和教育体験学習が実施された。地区福祉委員も多数参加。

1945年6月15日、松尾さんは勤労働員から一時帰郷のさい、大阪大空襲に遭遇。「グーン、グーン」大阪駅前の上空をB29戦闘機350機が覆う。たちまち、焼夷弾が建物を焼き尽くす。「熱(あつ)て、熱(あつ)て、いてられへん」それでも炎と煙の中、御堂筋を難波まで歩く。それから、やっとのことで大和川までたどり着き、体を冷やす。その時初めて、「九死に一生を得た」と安心したそうだ。その40日後の7月25日、川崎重工業泉州工場が空爆され、機銃掃射によって友達を失う。その3日後だった。深日千歳橋に爆弾が落ち、一人が亡くなった。「土と石が50mほど上空に上がった」松尾さんはその瞬間を自宅で目撃した。

松尾さんは力を込めて語る。「戦争は命を売りに行くこと。決して命を粗末にはしてはいけない。生きておれば何とかなる」そして、もめごとは、戦争ではなく、相手の立場に立って考える「話し合い」でしか解決できないと訴えた。

(中村 勲)



親子二人三脚で、パラリンピックを目指して!

岬中学校・人権学習講演会(7月6日)

7月6日、岬中学校の人権学習講演会(ノーマライゼーション学習)に深日地区福祉委員3名で参加しました。岬中学校の卒業生で、元JRA騎手の常石勝義さん

さんと常石さんのお母さんが、ご講演されました。

常石さんは2度の落馬事故により、命が危険な状態でしたが、懸命に親子二人三脚でリハビリに取り組まれ回復されました。落馬事故によって、手足と脳に後遺症があり、身体を動かすことや記憶することなど少し苦手なこともありながら、現在も障害馬術を続けられていて、パリのパラリンピックを目指しておられます。お話を聞いて、親子の愛と絆を感じ、また諦めずに挑戦していくことの大切さを教えていただきました。

(中出光子)

「グランドゴルフ大会」のお知らせ

- 日時：11月23日(祝) 受付9時～(9:30開始)
 - 会場：灰吹池グランド
 - 申込先：加門憲文(実行委員長) 090-6668-0395
川端 修(事務局長) 090-4776-7902
- ※詳細は、「回覧」・ポスターでご確認ください。

